

第 40 卷 PDF 読本



南武線（川崎～立川）

青梅線（奥多摩～立川）

五日市線（武蔵五日市～拝島）

鶴見線（鶴見～扇町）南武支線（尻手～浜川崎）

南武線・鶴見線リベンジ

2024年11月25日 歩く鉄道作家 檜原 勉

<目次>

はじめに

第1章 南武線（川崎～立川） 5

第2章 青梅線（奥多摩～立川） . . . 15

第3章 五日市線（武蔵五日市～拝島） 25

第4章 鶴見線（鶴見～浜川崎～扇町） 38

南武支線（尻手～浜川崎）

第5章 南武線・鶴見線リベンジ 43

南武線（35.5 km）

青梅線（37.2km）

五日市線（11.1km）

鶴見線（7.0km）

浅野～新芝浦～海芝浦、安善～大川の営業キロは除く

南武支線（4.1km）

総営業キロ 94.9 k m

はじめに

本著書はデジタル形態のシリーズもので、「こだわり鉄道つたい歩き」よる PDF 読本旅日記の手記記録です。これまでの 5 巻（うち 2 巻は書籍）については、稚内から鹿児島までの日本縦断の旅について描いたもので、お陰様で執筆が完了しました。

引き続き、第 6 巻目からは、“日本横断歩き鉄の旅”について連載しています。第 35 弾目として、東海道本線・中央本線に接続する、神奈川県・東京都を走る、南武線・青梅線・五日市線・鶴見線・南武支線の旅（総営業キロ 94.9 km）について執筆させていただきました。

本作品はカッシー館にある榎原勉文庫拡充で閲覧可能です。また、国立国会図書館でご承認を得れば、通算 49 作目の著書として国立国会図書館でも閲覧できます。

(2001 年 8 月～2024 年 11 月で踏破)

こだわり鉄道つたい歩きとは、カッシー館でもご紹介している通り、九ヶ条から構成されます。

1. ウォークマンを聴きながら一人歩きを楽しむ
2. “鉄道案内人”に従って各駅を踏破する
3. メモや写真をとりながら筋書きのないドラマを楽しむ
4. 必殺仕事人の心境で歩く
5. 出発点は先憂後楽の考えに基づき決める
6. 歩く鉄道営業キロは季節を考慮して決める
7. 活動記録をとっている
8. 青春 18 きっぷを極力活用する
9. 東横インを極力活用する

<ご参考>

本著書に登場する駅舎は、“日本横断歩き鉄の旅“PDF 読本シリーズ中、カッシー館のブログに登場する「榎原勉文庫拡充」にて、次のPDF 読本からダイジェスト版でもご閲覧頂けます。

第21編（日本横断歩き鉄の旅）

**南武線・横浜線
相模線・青梅線
五日市線**



相模線

2021年12月25日 歩く鉄道作家 榎原 勉

第1章 南武線

第1節 4月12日:川崎～武蔵溝ノ口 曇り／小雨

川崎(11:04)～尻手(11:27)～矢向(11:55)～鹿島田(12:50)～平間～向河原～武蔵小杉(14:17)～武蔵中原(14:50)～武蔵新城(15:10)～武蔵溝ノ口(15:50)

昨日の天気予報では、雨であったので、2003年4月12日(土)の朝はウォーキング中止のするつもりで起床せず。朝の新聞の情報では相変わらず雨であったが、6時半頃起床した時には薄日が差し込んで来たので、急遽ウォーキングを決意した。天候、時間等を考慮し、昨年の年末で中途半端になっていた南武線(武蔵溝の口＝川崎間)の12.7Kmに挑戦することとした。それで、セブンの朝の散歩をさせ、自宅を9時半過ぎに出た。運良く中央林間で南栗橋行き(3月末に路線延長)に乗ることが出来、川崎駅には11時4分に着いた。



※川崎駅，尻手駅

西口から溝ノ口を目指すこととした。尻手には11時27分に着く。矢向駅への途中、日枝神社(矢向四丁目)の銀杏を鑑賞する。この銀杏は「名木古木指定 横浜市」と書かれ、正月にお参りした絵馬やおみくじが一杯付けられていた。矢向第5踏切を越え、矢向駅には11時55分到着する。この駅まではやたらに踏切が多いと思ったら、どうも南武線ではなく、尻手から浜川崎を結ぶ鉄道であった。



矢向駅
矢向駅界限

本日は、矢向駅から鹿島田駅まで、全く方向性を失った。曇空や横須賀線も混乱を誘発させる要因となった。これまでのウォーキングの経験からも、鉄道や川があると地形を複雑にさせ、何回も道に迷いそうになることがしばしばあった。今日は、運悪く磁石を携帯していなかったのも敗因の一つであった。横須賀線に沿って、しかも川崎の方に進もうとしていた。可笑しいと思い、通行人に尋ね補正する。とんでもない「小倉」まで行っていた。一端道に迷うと自分が現在位置を確認できないところから、リカバリーには予想以上の時間を要する。3年前の相鉄線の鶴ヶ峰駅近郊の時も本日のように迷った。地図を見ればよかったのであるが、南武線は簡単と思い、舐めていたのかも知れない。後で地図を確認したところ、矢向から鹿島田駅にかけての鉄道はほぼ平行に走っており、迷うような要因は全くないのだが。天気であれば太陽での方向性を確認できるため、回避できただろう。



※鹿島田駅。平間駅

数人の通行人に尋ねて、横須賀線の新川崎駅に 12 時 45 分到着。この駅に沿って川崎方面に 100m位行って右折して 150m位行ったところに待望の鹿島田を見つけることができた。目と鼻の先に高層ビルがあった。鹿島田駅には 12 時 50 分に到着する。駅前結構賑やかな感じであった。駅前の「かしわや」で昼食を取る。鹿島田＝武蔵小杉間を注意深く歩いたが、平間駅は残念ながらクリアできず。この駅は多分踏切の手前左側にあったのだろう。平間商店街を通り、向河原を目指す。向河原は踏切の手前にあった。武蔵小杉には 14 時 17 分に到着。



※向河原駅、武蔵小杉駅

この近郊でも、横須賀線と東横線が交差しており、迷いそうになったが、地図を見て難を逃れる。先日の雨で桜は殆ど散っていた。また、明日は知事・県議員・市議員のトリプル選挙で町は候補者の応援カーで賑やかだった。武蔵小杉の駅前に高松一高会の幹事会の懇親会で使用する店と同一の「香港食堂」が目についた。武蔵小杉から武蔵新城にかけて、南武線は高架していた。ビックリした。前の印象では高架した箇所はなかったと思うが、錯覚であろうか。武蔵中原の駅前には富士通本社があった。



※武蔵中原駅、武蔵新城駅



※武蔵溝ノ口駅

武蔵小杉、武蔵中原（14時50分）、武蔵新城（15時10分）、それから武蔵溝の口は道路に沿ってあり、迷う心配は全くなかった。中原と新城は、最近できたのか、小杉や溝の口とは駅前の景観が異なっていた。つまり、駅前の広場はなく、駅が主要道路にじかに面する点で、京葉線の南船橋や新習志野と類似するところがあった。武蔵溝の口には15時50分に到着。帰りも運良く、急行中央林間行きに乗ることが出来た。中央林間駅に着く頃、雨も少し気になるようになっていた。自宅には16時50分到着する。万歩計は25,115歩だった。このところ、4週連続して、土曜日は天気が悪く、ウォーキングが思うように進まない。今日は行くか辞めるか迷ったが、行ってよかった。本日で、未踏破となっていた昨年の続きを終え、南武線を目出度く踏破することができた。本日の鉄道沿線は多摩川を歩いた印象とは全く異なり、ミステリーゾーンに自分を投入でき、有意義な一日だった。

第2節 12月29日(日):谷保～武蔵溝ノ口 快晴

谷保 (10:40)～西府～分倍河原(11:45)～府中本町(12:10)～南多摩(13:05)～稲城長沼～
矢野口～稲田堤～中野島～登戸(15:40)～宿河原(16:00)～久地～津田山(16:40)～
武蔵溝ノ口(17:05)

平成14年の最後は、12月29日(日)となった。昨日までは、12月7日(土)の池上線がとりになると思っていた。昨日ガラス拭きを終え、本日は家内が家の中で大掃除するので邪魔になるとのことで、朝7時半過ぎに急遽思いつき82回目のウォーキングに挑戦することとした。コースとして、横須賀線の続き(東戸塚)にするか南武線の続き(谷保)にするかを思案した結果、距離や道路状況等から南武線を選定することとした。



※谷保駅、分倍河原駅への路

朝セブンを散歩させ、南林間発9時43分の電車で登戸経由谷保に向う。谷保には10時40分に着く。谷保駅は長男がこの駅経由で大学に通った関係で、文化祭等の行事で数回来たことがあり馴染みのある駅であった。5分位JR線に沿って歩き、踏切を渡って進もうとしたところ行き成り袋小路に遭遇する。



※西府駅(その後新設)



※分倍河原駅、府中本町駅への路

甲州街道に出て復帰する。甲州街道の下を走る南武線手前から右折する。それから、100m位先に西府町第二公園がある。時計を見ると 11 時であった。本宿四号踏切を渡り JR 線の左側に出て、主として遊歩道である本宿通りを進む。美好三丁目の手前で頭上越しで JR 線を渡る。谷保＝分倍河原間は JR 線に沿った道がなく、分倍河原駅近郊は京王線もあり、地形が複雑であり神経を使わされた。そのため、地図を片手にしてのウォーキングとなった。また、分倍河原駅を走破するのに 2 人の通行人に聞くことになった。2.8Km を歩くのに 55 分を費やし、御獵場道を通り、分倍河原には 11 時 45 分の到着となった。鎌倉街道通りに府中第三小学校があった。同時に、この通りは第 2 都市遊歩道に繋がり、府中本町への道だった。府中本町には 12 時 10 分に着く。



※府中本町駅

今日は、愛用の万歩計（記録用）の進みが悪く、6,303 歩であった。一方、もうひとつの万歩計は 14,121 歩を指していた。この両者の万歩計には相当誤差があり、参考用の万歩計は、概ね記録用に比べ、2 割増位になるのが通常であるが、今日は 100% 増しとなった。これまでのウォーキングを通じ、私の場合 1 歩を 60Cm 位と見なしウォーキング距離を予測できる結果を得た。つまり、歩幅に歩数を乗じた予想距離と営業距離を 20% 増した距離が一致するという算用である。実際のウォーキング距離は、鉄道のように

にスムーズに繋がっておらず、川による迂回や道路状況等により統計的にみて、鉄道の営業距離に比べて長くなるからである。今日は比較的天候も穏やかだったので、府中本町駅近郊の路地で昼寝をしている人もいた。府中本町は、昨年夏、武蔵野線走破時の終着駅であり、着いたのは19時頃で薄暗かったが、多少ではあるが駅前のイメージが残っていた。駅前には、競馬予想屋の机もあった。今日は中山競馬場であったので駅前の乗客は少なかった。



※南多摩駅、南多摩駅への路

中央道側道1号を通り南多摩を目指す。この通りのマンションの一角では餅つきの様子を見ることができた。年末の光景が、本日歩いた沿線に現れていた。12時50分、平成12年5月初めてのウォーキング（多摩川沿線）で通過した是政橋と遭遇する。この橋は失敗から救ってくれた橋で非常に懐かしく思えた。当時、神奈川県沿いで多摩川を歩いて、南多摩で苦労した記憶が蘇ってきた。13時5分南多摩駅に着く。この駅は川崎街道から駅案内がありスムーズに行くことができた。駅は川沿いにあった。大丸（おおまる）踏切を渡ったところで、「天童」という山形ラーメンを食べさせる店に入る。13時15分頃であった。店に入ると「新婚さんいらっしゃい」のテレビ番組が放映されていた。今年最後の縁起を担ぎ 王将セット（ラーメン&半チャーハン）を注文する。私が食べている間、この店は有名なのか何人も来客があった。山形ラーメンは佐野ラーメンのような味でもあったが、私にとっては今ひとつであった。



※稲城長沼駅、矢野口駅

30分位休み、稲城長沼を目指す。もしかすると稲城長沼は通過したのではないかと心配した通り、この駅を見過ごす。結果的には本日唯一クリアできない駅となった。川崎街道には何処も駅への案内がない。矢野口以降は注意深く歩いたので見逃すことはなかった。矢野口、稲田堤それから中野島駅とも駅前の商店街は正月用品の販売で忙しそうであった。矢野口の近郊で、季節はずれの柿の実をカラスが「かあかあ」と美味しそうにほお張っているのを見かけた。写真撮影をしようと思った瞬間逃げられた。登戸には15時40分到着する。太陽もそろそろ沈みそうだし、年末なのでここで打ち止めにした気分であった。しかし、この駅で止めては平均営業距離20Kmをクリアできなくなるので、頑張り4.6Km先の武蔵溝ノ口駅を目指すこととする。



※稲田堤駅、中野島駅



※登戸駅（歩いた当時の駅舎と最近の駅舎）

途中宿河原駅には16時到着。この駅の近郊には釣堀があり、数十人の釣人が年末のひと時を楽しんでいた。釣堀の端には釣った魚を求めて白鷺が1羽いた。白鷺を見かけるのは南多摩駅に沿った川以来2度目であった。昔の湯を思わせるような宿河原湯のある道を通り、川沿いにある遊歩道に出る。この通りに沿って桜並木が続いていた。花見をするには好都合の箇所が遊歩道から少し降りたところにあった。両岸とも2m位の帯状で川を挟んで続く。下りる階段も随所にあった。この近郊は八幡下橋という看板があった。また、「長尾の里めぐり」というウォーキングコースの案内板もあった。宿河原

駅から津田山駅までの5.5Kmを遊歩道に沿って歩くコース（3時～4時間）である。今日もウォーキングを通じてひとつの発見をした。東名高速道路の手前に本堂が三重棟である新明国土教本部という立派な寺風の建物があった。寺は正月の準備万端であった。この高速道路のところで遊歩道は途切れていた。



※宿河原駅、この駅界限の銭湯



※久地駅、久地駅への路

この高速道路を過ぎたところに久地駅があった。その先の道路標識に溝ノ口への案内があった。16時25分だったので辺りは少し暗くなり掛けていたので、この発見で何とか武蔵溝ノ口に到着できると確信することができた。久地から終着駅まではJR線に沿って道路が続く。途中津田山駅には16時40分に着く。終着駅には17時5分に到着する。溝ノ口駅前のイルミネーションはとても綺麗だった。この艶やかな飾りが今年の締め括りとなった。この駅は田園都市線走破の時は昼間であった。昼と夜とでは駅前の感じが異なるのにビックリした。17時13分の急行で中央林間を目指す。自宅には18時5分に着く。今日の成果は、営業距離で18.9Km。歩数記録は万歩計が正しく作動しなく、止むを得ず補正後4万歩を採用することとした。(記録用:27,835歩、参考用:53,211歩)今日はJR沿線にも関わらず、私鉄と同様駅間隔が短く、写真を撮るのに非常に疲れる一日となった。一方では、年末の沿線の表情を観察でき、充実する一日であった。同時に82回の平均営業距離20Kmを温存できほっとする一日でもあった。

であることを感じた年はない。勿論このことはウォーキングに限ったことではなく、人生の歩み方にも言えるような気がする。私のウォーキングは、第一巻でも触れた通り、自分の身をミステリーゾーンへの投入である。プロ野球と同様筋書きのないドラマを楽しみたいのである。従って、基本的には地図は余り見ず、鉄道案内人に従って気ままに歩くよう心掛けている。それ故、囲碁や将棋のように詳細に手順を覚えておらず、二度と同じ足跡を辿ることはできないだろう。A地点からB地点を歩く場合でも、将棋や囲碁と同様組み合わせ局面が無数にある。ひとつコースを変えるだけで自分の周りの環境は全く別世界になる。そういう意味で、私の歩いた道は世界中で私しか経験できない道筋であるかも知れない。



※津田山駅、武蔵溝ノ口駅（再掲）

つまり、今回の**28**回のウォーキングを通じ、第一巻の小さな挑戦記で得た教訓の確認に加え、豊かな人生を歩む上で大切なキーワードである「時」と「道」を教えてもらった。それ故、自分のためにも第一巻以上に「首都圏歩記巡り」の記録を極力豊富に執りたい訳である。前は思い出して書いたのに比べ、今回は歩いた当日または翌日記憶が冷めないうちにタイムリーに筆を執った。感動した点はメモをとって記録に反映している。文才が全くないため、一日の出来事をまとめるのに少なくとも2～3時間程度費やしている。でも、家内の気持ちを度外視して自分中心に考えれば、自分の1年間の足取りが把握でき、今年も充実した一年を送ることができたように思う。

第二巻に記載した歩きを通じて、東京都知事の石原慎太郎氏の「老いてこそ人生」という言葉が日々自分自身の人生哲学として高まりを増している。どんな映画もドラマも最後に最大の山場があることに気がついたからである。平成**15**年**1**月**3**日（金）の箱根駅伝復路**9**区で最高のドラマを見せてもらった。駒大の島村君が**58**秒差でもらった「たすき」を残り**15Km**の地点で山梨学院大の清家君に並び追い越した場面である。駒大の総合優勝は下馬評通りかも知れないが、主な勝因は、終盤での頑張りであったと思う。**8**区の太田君(追い上げ)、**9**区の島村君(逆転)、更には**10**区の北浦君(引き離し)のいずれも区間最高の記録を挙げた。それ故、人生の中盤戦から終盤戦を迎えつつある

私にとって、数十年後死を迎える時最高の人生であったと言えるよう、ウォーキングを糸口に遊びにしる仕事にしる、自分が対面する全てに対し切磋琢磨したいのである。

第一巻でも触れた通り、ウォーキングには多種多様の楽しみ方がある。私の楽しみ方のメインは、歩ける範囲での首都圏鉄道沿線の走破である。天の恵みがある限り、鉄道営業距離を更新して行きたい。同時に第三巻、第四巻と「小さな挑戦」紀行文を伸ばして行き

第3節 8月18日(土)：立川～谷保 小雨

立川)17:30)～西国立～矢川～谷保(18:30)

2001年8月18日(土)、第3章第1節で記載のため割愛。



※立川駅、西国立駅



※矢川駅、谷保駅